

## blousonite.com

小向神社にて



## 産業政策について

今回の一般質問では、産業政策として、「中小企業の支援」と「企業誘致の促進」について再確認の質問を行いました。これは、2年前に質問をした内容と同じです。つまり、2年前現在の町長が就任されたあと、今後どのように「中小企業の支援」と「企業誘致の促進」をしていくのかを質問していました。それについて、その後の政策が、どうなっているのかを確認する質問を今回したわけです。今回質問して自分自身で、産業というものが、単純に経済発展だけではないのだろうなと感じました。

点だけで、経済活動を見てよいのかといえば、それはそうではないかと思えます。当然ながら、これは、大企業が朝日町に貢献しており中小企業は貢献していない、もしくは中小企業が朝日町に貢献しており大企業は貢献していないという、議論をしているわけではありません。

最近の研究では、祭礼といった従来では社会にとって一種の儀礼的な習慣としか考えられてこなかったものが、地域の形成や維持という点から、検討されるようになっていきます。要するに祭礼のようなものがある地域の方がいない地域よりも人口流出や衰退を食い止められているのではないかと考えられています。その点を踏まえれば、企業への視点も規模だけではない点での貢献や意義という視点を併存することも今後はより重要になってくるのではないのでしょうか。

中央政府たる国家の政策と基礎自治体である朝日町の政策が全く違う方向であることはありえませんが、お互いに役割が異なる中で補完しあう関係になることが望ましいと考えています。例えば、国家は国際競争力を維持する政策を志向し、朝日町は地域の活性化する政策を志向する、このような視点も含めて、朝日町行政が産業政策を進めて欲しいと感じました。

私は最近、企業の町への貢献というものは、大きく幅のあるもので、特定の方向からのみ見るべきではないと考えています。以前は、最初に企業というものがあり、その中で大企業、中企業、小企業という、分類に分けられるのではないかと考えていました。恐らく、それは、単純に経済という中で見た場合、資本金や従業員数という視点からみれば、正しいと思いますし、それが間違っているとも思いません。また、いわゆる大企業や中小企業については、法律上も定義されています。

ただ、そこには町への貢献や存在意義といった視点が捨象されるのではとも考えられます。恐らく、経済発展を最大の目標とした経済政策の中では、規模という視点は非常に重要なのだと考えられます。しかし、現時点において、その視

## 産業政策について

## 表面

産業政策について、今回一般質問をして感じたことを書きました。



役場

## 12月議会の質問

## 裏面

朝日町の産業政策について質問をしました。



議場

## 地域パトロールの日時

日時 毎月第二火曜日  
(雨天の場合は中止)

## ビスケットの日程

体験教室を中心に行っています。

## 編集後記

ここ数年、正月は朝5時から、神社で式典の準備をして、来た人にお神酒とみかんを配っています。それが、午後2時過ぎまでひたすら続きます。そのあと3時頃には後片付けをして、焚き火を消して、という感じです。正月はおめでたいというよりも、1年の義務が始まる日となっています。クリスマスブにレストランで働いている人みたいですね。年賀状を配っている人も同じ様な感じでしょうね。ただし私は手当もバイト代も出ません。新しい年が皆さんにとって良い年でありますように。